

そこで兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によ って、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

2015(27)年 週 報

11月8日
第2 聖日
第 3428号

「頭なるキリストに達す」

聖 言

それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばされたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストぶ達することができるのです。 エペソ4：14、15

礼拝の恵み 第二二章 第九節 礼拝の場所

第一節 霊的に礼拝は聖所の中にある。

美歌の作者たちは、この真理を歌で美しく表現している。そうして信者たちはJG・デックの次の賛美歌に声を合わせるのを喜ぶ。幕しさをすれば、われらのれいは、

めぐみのみくらに ちかづくなり
そのとうときおんちは そこにもものいい

きずはあがないの またきしめす
血にきよめられて 至聖所にて

みくらのまえにふし かみをはいす(礼拝賛美歌)

信者たちは肉体的にまだ地上にあるが、信仰の力によって、かれらは霊的には、この祝福された真理の世界にはいる。こうして彼らの霊は天国の雰囲気
のなかにはいる。真実と真理とにおいて次のように歌
えるのである。

闘争する 休みのないこの世から
高く 高く。神と共にひとりあれ。

われらはあなたの愛とあなたの知恵とあなたの恵
みとを、知ろうと努める。

ある立派な信者は、この真理を体験しつつ生活して
いたが、あるとき天は地からどのくらい遠いでしょう
うか、と尋ねられた。と答えた。天と地との間には
幕ひとつしかない。そして神の子は信仰によってこ
の幕からはいつて、恵みの座の前にひれ伏して礼拝
することができる。
(礼拝 ギブス著)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年一月一日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「キリストの身丈」

「ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するためです。」(エペソ四ノ一三)

祈り

秋も深まり、紅葉が鮮やかになってきました。一月一日、聖日であります。今日愛する主にある兄弟姉妹と礼拝をおささげでくる幸いを覚えて感謝します。ますます、信仰と神の御子に関する知識に一致させてください。一人だけでなく、礼拝をささげる全ての人が信仰と神の御子に一致して満たしてください。そして神の満ち満ちた臨在に満たされ、イエス様のみこころが、自分の思いとなり、行動するようになる、成人した大人の信者と成長させてください。

猫はある年齢までは子猫の世話をしますが、年齢に達すると、面倒を見なくなりす。それで子猫は仕方ないので、自分でえさを捜しに行きます。わたしも過保護にならないように、最近戸別を再開しました。何もしなくても生きられるというあまえを克服するためです。ある人に「エホバの証人は上手にするけど、先生はへたくそ」と言われました。自分でもいつも訪問したあと、あそこでこうすべきだった。大胆にはなすべきだといつも反省しています。

わたしたちがキリストの身丈になるとは、スーパースターになるのではありません。奇跡や癒しや予言や超能力を持つことではありません。信仰の一致神の御子に関する一致に達することです。クリスマスチャンも教派により分裂するのではなく、まず信仰の一致をしなければなりません。初めに御霊の一致をも求めよ。なぜなら、御霊、召しのもたらした望み、主、信仰、バプテスマ、すべてのものの父なる神が一つであるからです。その一致は信仰と神の子に関する知識によります。知識とは頭でなく、交わりによるのです。大人になりきれない子どものような人がおおくなっている。年齢とともに成長していかねばならない。最終的にはキリストが私たちに与えたいと

ねがっている満ち満ちた神の本質を知り、それを目指して、幼稚な考えを捨てて信仰に励むのです。

二〇一五年一月四日午後七時 祈禱会 山本牧師

「君主の礼拝」

「君主は外側の門の玄関の間を通って入り、門の戸口の柱のそばに立っていなければならない。祭司たちは彼の全焼のいけにえと、和解のいけにえをささげ、彼は門の敷居のところで礼拝をして出ていかなければならない。門は夕暮れまで閉じてはならない」(エゼキエル四六ノ二)

君主はその重要な職務と重い責任の故に、それにふさわしい地位と尊敬が与えられるべきであるが、君の君なる方の前での礼拝においては、会衆の一人にすぎず、そんな差別を設けてはならないのである。「あなたの会堂に、金の指輪をはめ、りっぱな服装をした人がはいつて来、またみすぼらしい服装をした貧しい人もはいつて来たといします。あなたがたが、りっぱな服装をした人に目を留めて「あなたは、こちらの良い席におすわりなさい。」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこで立っていなさい。でなければ、私の足もとにすわりなさい。」と言うとせうれば、あなたがたは、自分たちの間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく者になったではありませんか。」(ヤコブ二ノ二〜四)。